

日本住を快適空間!

ダンネツ通信

2009.Summer vol.65

発行：株式会社ダンネツ 〒070-8045 北海道旭川市忠和5条4丁目9-17 TEL(0166)61-9151・FAX(0166)61-2044

ダンネツ創業30周年記念企画・太田会長に聞く



これまでの30年・これからの30年



今年で創業30周年を迎えた(株)ダンネツ。昨年秋から経済情勢が厳しさを増す中、今まで以上に快適な住環境づくりを目指してハウスメーカー・工務店様とエンドユーザーの方々のお役に立てるよう努力を重ねていきたいと考えています。今回はこの節目の年を迎えたのを機に、創業者である太田吉四郎代表取締役会長にこれまでの30年とこれからの30年を語っていただきました。

省エネ・健康・環境がキーワード

—創業からこれまでの30年を振り返って、住宅業界やエンドユーザーの意識はどのように変わってきたと思いますか。

太田会長 この30年で住宅後進国だった日本が住宅先進国に仲間入りできるところまで、断熱などに対する住宅業界の意識は高まったと思います。また、以前はほとんど問題にされなかった健康性や環境配慮についての認識も高まってきました。当社が今後30年で目指す方向も省エネ性に加え、健康性や環境配慮をキーワードとして、研究開発に力を入れていきたいと考えています。

ただ、ヨーロッパはもっと先を行っています。また、このところ外断熱に対する関心も高まり、行政も建築学会も外断熱に力を入れてきていると思います。今後、外断熱が住宅建築の主流となっていくとすれば、新しい技術が必要とされること

になるかもしれません。それにはかなり時間がかかるのではないのでしょうか。

—会社としてはブローイング工事だけでなく、様々な業務を展開するようになりましたね。

太田会長 当社は30年前、天井のブローイング工事から出発した企業ですが、社会の要請や変化に対応するためにブローイング以外にも多様な方向性を意識して業務を展開してきました。これは世の中の動きに対応することはもちろんですが、仕事の中でハウスメーカー・工務店様から「このようなものがあればいい」「こうすればもっとうまくいく」などと教えてもらったことがきっかけになっており、私は“仕事をする中で仕事を教えてもらった”と思っています。



(株)ダンネツ・太田吉四郎代表取締役会長

市場の声に耳を傾け、仕事を作る

—“仕事をする中で仕事を教えてもらった”という具体的な例としてはどんなことがありますか。

太田会長 例えば、現場の合理化・省力化と施工



第2工場内にある製品展示ブース。各種パネル製品やかんたんベースは第1工場建設がきっかけとなって誕生した

精度の向上を目指したパネル製品は、「大工の減少や使用する木材・建材の変化に対応できるものを」という市場の声から生まれたものです。ハウスメーカー・工務店様やエンドユーザー様からの要望が仕事になっているのです。ですので、どういう発想でいろいろな事業をやっているのかとよく聞かれるんですが、実は何もないんですね。

また、現場は必ず見に行きますが、そこでも仕事につながるヒントが出てきます。工場を見ていると「こうすればいいんじゃないか」と思うことがあります。ハウスメーカー・工務店様などからの情報をきちんと聞き取り、断熱や各種建材などの専門分野の人にどう協力してもらおうかが大切なことだと意識しています。

パネル工場建設が一つの転機に

—この30年で節目となったことは。

太田会長 2度のオイルショックが住宅業界にとっても当社にとっても転機でしたね。省エネの方向性が明確になり、建材の革新や技術の刷新が要求されるようになりました。同時に建築学会も技術の刷新を誘導するなど、影響力が高まってきた時期でもありましたが、当社はこの節目節目で仕事を作るためのヒントを得ながら、よりハウスメーカー・工務店様の家づくりに役立つ企業へと改革を行ってきました。

その過程でさらに優れたもの、より精度が高いものを要求されるようになり、パネル工場を建設しましたが、これは大きな決断でした。もともと当社は断熱工事業者だったので、工場を作るという発想はまったくなかったんです。しかし、それも企業力のさらなる向上を図るきっかけになり、第2工場では製品化している型枠兼用断熱材の「かんたんベース」や湿式仕上げ用プレコーティング外張り断熱材「そとだんパネル」の開発につながっています。

—関東での事業展開も大きな節目だったのでは。
太田会長 関東での事業展開は雇用の確保が大きな目的の一つでした。北海道のフローリング市場が縮小した時に、工場生産のパネル製品があるからといってフローリングの技術者を工場に入れることはできませんし、解雇するわけにもいきません。そこでフローリングが普及途上で、市場規模が北海道の20倍以上ある関東に出先を作ったのです。一方で北海道ではパネル製品の強化や省エネ・エコにつながる住宅資材の開発を続けながら、フローリングに代わる市場を作ってきました。

やはりどんなに新しい仕事をやるにしても、技術力のある新しい人材をどんどん入れるより、今いる従業員を落伍させることなく働けるように考えなければなりません。そうしないとやはり個人個人のモチベーションが下がってしまいます。

エコな断熱改修を推進

—これから30年の展望をお聞かせ下さい。

太田会長 既存住宅に的を絞って、省エネで産廃も出さない断熱改修に力を入れていきたいと考えています。これからの住宅資材はどんなものでも環境対策をしなければ生き残れないと思っていますので、“エコ”は大きなテーマです。

既存住宅の改修は、北海道でゆうに20～30年分の市場がありますし、老朽化して不要になるマンション・アパートをどうするかも研究する時期にきているでしょう。

また、これからも夢を持ち続けていきたいですね。夢がなかったら30年続きません。常に高いレベルを目指して夢を追い続けていくことで、従業員も仕事にやりがいを感じ、モチベーションが上がっていくのではないのでしょうか。夢を持って初志貫徹する精神力と行動力があれば、自然に周囲が評価し、認めてくれると考えています。



今後はそとだんパネルを使った断熱改修に力を入れていく

国の既存住宅・建築物省エネ改修緊急促進事業による

『そとだんパネル』の断熱改修事業がスタート



札幌市厚別区の築35年になる物件。建物正面をトップコートで仕上げたところ



そとだんパネルはビス・ワッシャーで躯体のブロックに留め付けている

ダンネットでは、国交省の「平成20年度既存住宅・建築物省エネ改修緊急促進事業」に採択された『そとだんパネルによる断熱改修』を北海道内で開始。先頃、札幌市内で築35年になる補強コンクリートブロック造の住宅の施工現場を公開し、訪れたユーザーに暮らしたまま施工できる外張り断熱改修のメリットや塗り壁仕上げの良さなどをアピールしました。

そとだんパネルは、断熱材のビーズ法スチレンフォームに、あらかじめ塗り壁仕上げの下地となるベースコートとグラスファイバメッシュを工場施工したパネル。断熱材からベースコート、塗り壁仕上げ材のトップコートまで、いずれも高い透湿性を持っているため、通気層施工の手間が省けるほか、仕上げは従来の左官仕上げと同様に多彩なテクスチャーを表現できるのが特徴です。

今回、このそとだんパネルで断熱改修を行った物件は、築35年になる約30坪の2階建てで、現在のオーナーは2年前から入居。断熱は躯体室内側にグラスウールが50mm程度、暖房は煙突式のストーブ1台だけだったため、冬期は室温がマイナスになる部屋もあったほど。今回は、外壁部分の断熱改修だけでどれだけ室内環境を改善できるか、どれだけ省エネ効果が得られるかを目的としているため、天井や床、窓回り、設備などは手を付けず、そとだんパネルの施工とパネル表面の

塗り壁仕上げだけ行いました。

施工は5月下旬から開始し、躯体のブロックにそとだんパネルをビスとワッシャーで留め付け、ジョイント部分は現場でベースコートとグラスファイバメッシュにより処理。外壁面積は約100㎡で、パネルは接着張りも検討しましたが、コスト面でビス・ワッシャー留めの方が有利であるほか、ブロック表面の塗装の状態があまり良くなく、引っ張り強度もあまり出なかったため、ビス・ワッシャー留めとなりました。

なお、パネルの標準断熱厚は50mmですが、妻壁部分だけ躯体のブロックが15mmほど突き出たため、妻壁部分は50mm厚、その他の部分は65mm厚として段差を解消。仕上げは1階外壁をイエロー系、妻壁部分をホワイト系で塗り分けています。

改修費用は150万円程度で、このうち4分の1は国の補助によってまかなわれます。

同社事業推進本部では「補強コンクリートブロック造の躯体にそとだんパネルをビス・ワッシャー留めするのは、新たなチャレンジでもありました。改修の場合はその建物の状況にあわせて施工方法を判断することになりますが、今回のように断熱厚を変えることで壁面の段差を解消し、フラットに仕上げられることも可能になるなど、柔軟な対応ができるのもそとだんパネルの大きな特徴です」と話しています。



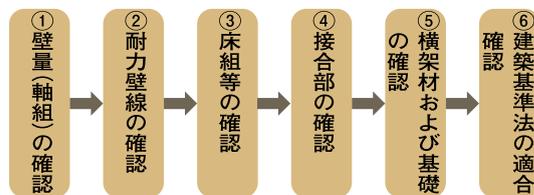
耐震等級2(倒壊等防止)はどう対応する？

Q…減税などのメリットがある長期優良住宅の認定を在来木造住宅で取ろうと考えていますが、認定基準の一つである耐震等級2(倒壊等防止)をクリアするにはどうすればいいのでしょうか？

A…在来木造の戸建てで長期優良住宅の認定を受けるには、劣化対策や耐震性、省エネ性など10項目中8項目の基準をクリアする必要があり、そのうち耐震性は性能表示の「耐震等級2(倒壊等防止。以下略)」に適合することが必要です。

耐震等級2は「極めてまれに(数百年に一度)発生する地震の力の1.25倍の力に対し倒壊、崩壊しないこと」とあります。これは単に壁量を基準法の1.25倍にすればいいというわけではなく、必要壁量を満たしたうえで、床倍率や軸組接合部、横架材の断面寸法・スパンを決めていくことになり、基準に適合しているかは①仕様規定②構造計算という2つの方法で確認します。

仕様規定は㈱日本住宅・木材センターが発行している『木造住宅のための性能表示』をもとに設



仕様規定による耐震等級2の適合判定手順。某性能評価機関担当者によると、床倍率の計算などは非常に面倒だという

計仕様をチェックしますが、ある性能評価機関の担当者によると「床倍率の計算が非常に面倒なほか、横架材も同財団のスパン表にない仕様は手計算になるなど、相当の知識と経験が求められる」と言います。適合を確認できる性能表示対応のCADソフトなどもありますが、15～20万円程度かかるうえ、操作方法の習得なども必要になってくるので、自社で適合チェックするのなら、社内に専門スタッフを置くことも必要になりそう。

一方、構造計算は多くの場合、設計事務所などへ外注することになると思いますが、構造計算書や設計内容説明書などの作成も含め、20～25万円程度の費用はかかる見込み。

いずれにしても会社として長期優良住宅にどう対応していくのか、社内体制はどうするのかを考慮したうえで、選択することになりそうです。

●編集●後●記●

▲8月末に衆議院選挙が行われます。全国選挙モード一色なのですが、現在の政治に対する閉塞感が少しでも良い方向に変革されることを期待していますし、皆さん選挙に行って国政に参加しましょう。(佐野)

▲住宅着工量がなかなか回復せず、今年に入り北海道は昨年より4割少ないペースで推移しています。夏以降は回復に向かうとの見方もあるようですが、もっと起爆剤となる補助・減税措置なども必要ではないでしょうか。(水越)



株式会社ダンネツ

ホームページURL <http://www.dan-netso.co.jp/>
E-mailアドレス info@dan-netso.co.jp

「快適な住まいづくり」はお任せ下さい!

- フローイング工事各種
- 外断熱工事
- 気密工事
- ウレタン吹付工事
- 断熱建材製造販売
- 住宅性能診断

■本社	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17	TEL(0166)61-9151 FAX(0166)61-2044
■旭川第一工場	〒071-1248 上川郡鷹栖町8線西2号	TEL(0166)87-4442 FAX(0166)87-4888
■旭川第二工場	〒070-0014 旭川市新星町514番地1	TEL(0166)21-7080 FAX(0166)21-7080
■札幌支店	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3966 FAX(011)875-3971
■外断熱事業部	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3969 FAX(011)875-3971
■ウレタン事業部札幌事務所	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3972 FAX(011)875-3974
■旭川支店	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17	TEL(0166)62-7575 FAX(0166)61-1715
■帯広支店	〒080-2460 帯広市西20条北2丁目27-10	TEL(0155)41-4101 FAX(0155)41-4105
■釧路支店	〒088-0621 釧路郡釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790 FAX(0154)36-1844
■北見支店	〒099-0878 北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557 FAX(0157)36-3433
■北関東支店	〒362-0047 埼玉県上尾市今泉1丁目27-4	TEL(048)783-1666 FAX(048)783-1667
■千葉支店	〒262-0011 千葉県千葉市花見川区三角町16番2	TEL(043)258-4065 FAX(043)258-4025
■宇都宮支店	〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266 FAX(028)636-2675
■平塚支店	〒254-0018 神奈川県平塚市東真土4丁目2-69	TEL(0463)54-6484 FAX(0463)54-2430
■水戸支店	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町字西割4312-3	TEL(029)248-6761 FAX(029)248-6762
■ウレタン事業部東京支店	〒351-0002 埼玉県朝霞市下内間木301番地	TEL(048)458-1455 FAX(048)456-3877
■ダンネツ信州	〒399-0033 長野県松本市大字笹賀5130-1	TEL(0263)26-0811 FAX(0263)26-1016